

## 第 34 回 医療講演会(ハイブリッド開催) 報告

2025 年 12 月 20 日

特定非営利活動法人 日本血管腫・血管奇形患者支援の会

報告者：長尾亜紀子

2025 年 12 月 20 日(土)、関東 IT ソフト健保会館大久保会議室とオンライン配信を同時にするハイブリッド形式で第 34 回医療講演会が開催されました。

当日の会場参加者は 9 名、オンライン参加者は 11 名、アーカイブ配信希望者は 8 名でした。

内容は、鹿児島大学病院 形成外科 部門科長 准教授 加藤 基(もと)先生を講師としてお招きし『からだの流れを整える、医療の流れを作る』というテーマでご講演いただきました。また、今回は初の試みとして、当法人理事でもある岐阜大学医学部附属病院 小児科の小関道夫先生が、座長として、講演を進める形となりました。

加藤先生には、形成外科医としての立場から、以下のお話をいただきました。

1. 2025 年 4 月に母校である鹿児島大学病院内に病院開設以来初の形成外科を立ち上げられたお話

### 2. 血管腫・血管奇形の概要

新 ISSVA 分類(2025 ISSVA 分類日本語版)を参照しながら、血管腫や動静脈奇形、毛細血管奇形、静脈奇形の症状について及び、加藤先生が過去行われた具体的な症例、施術についての説明。

### 3. リンパ管細静脈吻合術(LVA)によるリンパ管奇形の治療

リンパ管細静脈吻合術(LVA)は、リンパの流れが滞ってむくみが生じるリンパ浮腫の治療に用いられている手術法です。リンパ浮腫は乳がんや子宮がん患者に行われるリンパ節郭清(がん手術において、がん細胞が転移している可能性のあるリンパ節を周囲の脂肪組織などを含めてまとめて切除すること)などで現れる症状です。このリンパ浮腫の治療のために、ICG 蛍光造影という造影法を使うと、どこでどのようにリンパ液が流れ、溜まっているかが細かく分かるようになりました。ICG 蛍光造影法を用いて、リンパの流れを詳しく調べ、滞っている原因となっている 0.3~0.4mm の微細なリンパ管と細静脈を顕微鏡下でつなげるのが、リンパ管細静脈吻合術(LVA)です。この手技によって、リンパ管中の滞っているリンパ液を新たにつないだ細静脈やリンパ管に流してやることで治療効果が得られます。

リンパ管奇形の治療手順としては

①ICG 蛍光造影法によってリンパの流れの状態(進行度)を検査(評価)する

②リンパ管造影により、リンパ液の溜まっている患部とリンパ管の関係性のパターンは次の 4 つと考えられる。

パターン1…太いリンパ管から患部に直接リンパ液が流れ込んでいる

パターン2…細い複数のリンパ管からチョロチョロと患部にリンパ液が流れ込んでいる

パターン3…患部の表面を辿るだけのリンパ管で、患部にはリンパ液が流れ込んでいない

パターン4…患部の周辺にあるだけで、全く患部に流れ込んでいない

③パターン1と2は、リンパ管から患部に液が流れ込むタイプなので、流れ込むリンパ管を断ち切って、断ち切ったリンパ管のリンパ液をLVAにより他へ流す

④パターン3と4は、リンパ管から患部にはリンパ液が流れ込んでいないが、患部が水たまり状になっていて、水たまり状のもの外にリンパ液が逃げ出ていることが造影検査をした結果わかるので、その逃げ出ている道を探り、LVAによりリンパ液を流す

治療方法の説明の後、実際にLVAにより行われた「切除が不可能な頭頸部のリンパ管奇形」、「クリッペルトレノネー症候群による鼠径部のリンパ管奇形」、「腹腔内リンパ管奇形」の術前と、術後(数か月の経過観察後)の大きく改善した3症例が紹介されました。

今現在は、この手技がどのような症状の方に適合するか、そしてどの部位を吻合して治していくかを具体的に議論する段階になってきているそうです。

#### 4. 流れを作るということ

1でも述べたように、加藤先生は2025年4月に母校、鹿児島大学の鹿児島大学病院に、念願であった形成外科を立ち上げられました。何もない状態から、お一人で大変なご苦労をされて、『日本で最も新しい医局』を設置されたそうです。

鹿児島大学病院に形成外科の医局ができ、他の診療科とのつながりができて、チーム医療へつながるといように、小さな流れから少しずつ医療の流れを作って、より良い方向に変えていくことができる。リンパ管細静脈吻合術(LVA)も細かいリンパ管の流れを作り出して、リンパ管腫・リンパ管奇形の治療につながる。「流れを作るということが、病気だけでなく社会的な意味でもなにか良い方向へ流れていくといいなと思っています。」と加藤先生は話を締めくくられました。

#### <交流会・個別相談会>

講演終了後、参加者同士の交流会と先生による個別相談会を実施しました。

今回は、1つのグループで交流会をしました。初めて参加された方もいらしたので、それぞれ自己紹介して病気の悩み、症状などを共有しました。

交流会と同時に、加藤先生、小関先生は参加者の個別相談に応じていただきました。相談時間も長く取ることができ、2人の先生のご意見、お考えが聞けるので、参加された方にとって有意義な時間、機会となったのではないかと思います。

今までの講演で勉強してきた硬化療法や薬物療法とは違う、顕微鏡を使って 0.3~0.5mm(シャープペンシルの芯より細い位)のリンパ管と細静脈の内皮同士を、針(約 0.03mm)と糸(0.01~0.02mm)を使ってつなげて、溜まったリンパ液を流す『リンパ管細静脈吻合術』という、初めて耳にするリンパ管奇形の治療法を知りました。常人には考えられない高度で細密な手術をされる加藤先生ですが、とても気さくで、講演は終始和やかでした。先生からいただいた“流れ”を私たちも大切に活かし、活動していきたいと思いました。

以上